

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年2月10日

**【四半期会計期間】** 第78期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

**【会社名】** 東邦アセチレン株式会社

**【英訳名】** Toho Acetylene Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 藤井恒嗣

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区東日本橋二丁目4番10号

**【電話番号】** 03-5687-5200(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役常務執行役員 小西国温

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区東日本橋二丁目4番10号

**【電話番号】** 03-5687-5201

**【事務連絡者氏名】** 取締役常務執行役員 小西国温

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第77期 第3四半期 連結累計期間	第78期 第3四半期 連結累計期間	第77期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(千円)	23,164,390	25,129,878	32,089,532
経常利益	(千円)	1,066,376	927,846	1,321,860
四半期(当期)純利益	(千円)	601,494	380,917	315,462
四半期包括利益又は 包括利益	(千円)	675,860	444,030	442,033
純資産額	(千円)	8,585,833	8,784,407	8,352,156
総資産額	(千円)	27,336,627	31,032,806	30,048,063
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	17.22	10.90	9.03
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	26.19	23.46	22.97

回次		第77期 第3四半期 連結会計期間	第78期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額	(円)	6.62	6.08

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 第77期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理をしております。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興に伴い企業の経済活動において緩やかな回復の兆しが見られるものの、世界経済の減速懸念や長期化する円高の影響により、依然として先行きは不透明な状況で推移してまいりました。

このような状況下、当社グループの主たる営業基盤であります東北地域は、震災による大きな被害を受けました。当社におきましても主要な設備である仙台生産工場が甚大な被害を蒙りましたが、8月19日には全面復旧しております。当第3四半期連結累計期間の売上高は、震災からの復旧工事関連に伴う器具器材関連事業の売上高が増加したことにより、251億29百万円と前年同四半期に比べ19億65百万円（8.5%）の増収となりました。しかしながら、営業利益は生産工場稼働停止期間中の外部調達に伴う原価高の影響を受けたことにより8億42百万円と前年同四半期に比べ1億26百万円（13.0%）の減益、経常利益は9億27百万円と前年同四半期に比べ1億38百万円（13.0%）の減益、四半期純利益は災害による損失1億94百万円を特別損失に計上したこと等により3億80百万円と前年同四半期に比べ2億20百万円（36.7%）の減益となりました。

セグメント別業績の概要は次のとおりであります。

#### ガス関連事業

ガス関連事業におきましては、震災の影響を大きく受け全般的に回復が遅れていること等により、溶解アセチレンは造船向けが、酸素は造船・液晶向けが減少いたしました。窒素はエレクトロニクス・半導体をはじめ熱処理・特殊鋼向けが、水素はエレクトロニクス向けが減少し、売上高は減少いたしました。

また、液化石油ガスにおきましても産業用及び民生用が減少したことにより売上高は減少いたしました。

以上の結果、当部門の売上高は146億40百万円と前年同四半期に比べ3億42百万円（2.3%）の減少、営業利益は生産工場の稼働停止に伴う原価高の影響により、10億97百万円と前年同四半期に比べ2億61百万円（19.2%）の減少となりました。

#### 器具器材関連事業

器具器材関連事業におきましては、震災からの復旧工事関連に伴う需要が増加したことにより、溶接切断器具及び生活関連器具の売上高が増加いたしました。

当部門の売上高は77億54百万円と前年同四半期に比べ11億53百万円(17.5%)の増加、営業利益は1億17百万円と前年同四半期に比べ1億12百万円の増加となりました。

#### その他事業

その他事業におきましては、機械等の受注が減少いたしましたが、自動車関連機器の設備投資需要に支えられ、売上高は増加いたしました。

当部門の売上高は27億34百万円と前年同四半期に比べ11億54百万円(73.0%)増加いたしましたが、営業利益は1億96百万円と前年同四半期に比べ10百万円(5.1%)の減少となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、310億32百万円となり、前連結会計年度末と比べ9億84百万円増加いたしました。この主な要因は、震災において被災した仙台生産工場の復旧に伴う有形固定資産の取得等により増加したことによるものであります。

負債は、222億48百万円となり、前連結会計年度末と比べ5億52百万円増加いたしました。この主な要因は、有利子負債の返済等による減少がありましたが、売上高の増加に伴う仕入の増加により支払手形及び買掛金の増加がそれらを上回ったことによるものであります。

純資産は、87億84百万円となり、前連結会計年度末と比べ4億32百万円増加いたしました。この主な要因は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は34百万円であります。

#### (5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産実績についてはガス関連事業及びその他事業、仕入・販売実績については器具器材関連事業並びにその他事業が著しく変動いたしました。

その事情及び内容等については、「(1) 経営成績の分析」をご覧ください。

#### (6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、当社仙台事業所(宮城県多賀城市)の生産工場が東日本大震災の津波の影響により停止しておりましたが8月19日には全面復旧しております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,020,000	35,020,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	35,020,000	35,020,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日		35,020		2,261,000		885,000

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 36,000		
	(相互保有株式) 普通株式 130,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,770,000	34,770	
単元未満株式	普通株式 84,000		
発行済株式総数	35,020,000		
総株主の議決権		34,770	

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、自己株式208株を含めて記載しております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東邦アセチレン株式会社	東京都中央区東日本橋 2丁目4-10	36,000		36,000	0.10
(相互保有株式) カガク興商株式会社	宮城県石巻市三ツ股 1丁目2番106号	130,000		130,000	0.37
計		166,000		166,000	0.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,184,657	5,289,026
受取手形及び売掛金	2 8,096,413	2, 3 9,995,639
商品及び製品	785,672	885,808
仕掛品	112,587	124,280
原材料及び貯蔵品	59,227	83,114
その他	702,237	626,928
貸倒引当金	101,590	73,196
流動資産合計	16,839,204	16,931,602
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,695,968	2,910,599
機械装置及び運搬具(純額)	1,179,623	1,791,360
土地	6,760,877	6,777,123
その他(純額)	552,716	616,037
有形固定資産合計	11,189,186	12,095,121
無形固定資産	332,011	278,517
投資その他の資産		
投資有価証券	850,241	895,998
その他	906,484	919,947
貸倒引当金	69,065	88,380
投資その他の資産合計	1,687,661	1,727,565
固定資産合計	13,208,859	14,101,204
資産合計	30,048,063	31,032,806
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,487,203	3 7,024,219
短期借入金	9,467,533	6,995,252
未払法人税等	272,297	198,240
賞与引当金	300,173	160,763
役員賞与引当金	23,760	1,550
資産除去債務	-	87,070
その他	1,179,485	1,757,760
流動負債合計	16,730,453	16,224,856

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2,637,161	3,979,984
退職給付引当金	1,194,040	1,229,061
役員退職慰労引当金	534,583	387,510
資産除去債務	91,955	4,953
負ののれん	72,444	31,580
その他	435,267	390,452
固定負債合計	4,965,453	6,023,542
負債合計	21,695,906	22,248,399
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,261,000	2,261,000
資本剰余金	905,452	905,452
利益剰余金	3,676,451	4,057,368
自己株式	8,277	8,277
株主資本合計	6,834,627	7,215,544
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	66,230	64,638
その他の包括利益累計額合計	66,230	64,638
少数株主持分	1,451,299	1,504,224
純資産合計	8,352,156	8,784,407
負債純資産合計	30,048,063	31,032,806

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	23,164,390	25,129,878
売上原価	16,029,423	18,125,878
売上総利益	7,134,966	7,003,999
販売費及び一般管理費	6,165,606	6,161,027
営業利益	969,359	842,971
営業外収益		
受取利息	2,439	1,554
受取配当金	10,601	7,788
受取賃貸料	88,745	73,545
持分法による投資利益	12,615	57,669
負ののれん償却額	83,348	40,864
その他	75,242	73,892
営業外収益合計	272,994	255,315
営業外費用		
支払利息	144,613	146,066
手形売却損	5,667	3,556
賃貸費用	15,668	15,166
その他	10,027	5,651
営業外費用合計	175,977	170,440
経常利益	1,066,376	927,846
特別利益		
固定資産売却益	5,940	20,264
貸倒引当金戻入額	4,850	-
退職給付引当金戻入額	6,004	-
災害損失戻入益	-	12,266
保険解約返戻金	5,507	5,305
受取保険金	-	3,000
関係会社清算益	4,584	-
負ののれん発生益	72,857	8,158
受取補填金	-	21,235
特別利益合計	99,744	70,229
特別損失		
固定資産除売却損	11,174	17,691
減損損失	2,905	4,218
投資有価証券売却損	5	-
投資有価証券評価損	2,999	-
関係会社整理損	284	-
災害による損失	-	194,013
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	13,581	-
特別損失合計	30,951	215,923
税金等調整前四半期純利益	1,135,170	782,152
法人税等	467,200	338,984
少数株主損益調整前四半期純利益	667,969	443,167
少数株主利益	66,474	62,250
四半期純利益	601,494	380,917

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	667,969	443,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,722	2,129
持分法適用会社に対する持分相当額	831	1,266
その他の包括利益合計	7,891	862
四半期包括利益	675,860	444,030
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	604,959	379,325
少数株主に係る四半期包括利益	70,900	64,704

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
税金費用の計算 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)												
<p>1 偶発債務 連結子会社以外の会社の金融機関からの借入について保証予約を行っております。</p> <table> <tr> <td>    (株)福島共同ガスセンター</td> <td>65,750千円</td> </tr> <tr> <td>    八戸液酸(株)</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>        計</td> <td>70,750</td> </tr> </table>	(株)福島共同ガスセンター	65,750千円	八戸液酸(株)	5,000	計	70,750	<p>1 偶発債務 連結子会社以外の会社の金融機関からの借入について保証予約を行っております。</p> <table> <tr> <td>    (株)福島共同ガスセンター</td> <td>27,125千円</td> </tr> <tr> <td>    八戸液酸(株)</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>        計</td> <td>42,125</td> </tr> </table>	(株)福島共同ガスセンター	27,125千円	八戸液酸(株)	15,000	計	42,125
(株)福島共同ガスセンター	65,750千円												
八戸液酸(株)	5,000												
計	70,750												
(株)福島共同ガスセンター	27,125千円												
八戸液酸(株)	15,000												
計	42,125												
<p>2 手形割引高     受取手形割引高 203,357千円</p>	<p>2 手形割引高     受取手形割引高 255,692千円</p>												
	<p>3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。     なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれておりません。</p> <table> <tr> <td>    受取手形</td> <td>434,772千円</td> </tr> <tr> <td>    支払手形</td> <td>204,808千円</td> </tr> </table>	受取手形	434,772千円	支払手形	204,808千円								
受取手形	434,772千円												
支払手形	204,808千円												

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費 724,699千円	減価償却費 718,811千円
のれんの償却額 28,262千円	のれんの償却額 22,796千円
負ののれんの償却額 83,348千円	負ののれんの償却額 40,864千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ガス関連 事業	器具器材 関連事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,982,864	6,600,905	1,580,620	23,164,390		23,164,390
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	14,982,864	6,600,905	1,580,620	23,164,390		23,164,390
セグメント利益	1,359,306	4,496	206,872	1,570,675	601,316	969,359

(注) 1 セグメント利益の調整額 601,316千円は、すべて全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ガス関連 事業	器具器材 関連事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,640,279	7,754,763	2,734,834	25,129,878		25,129,878
セグメント間の内部売上 高又は振替高						
計	14,640,279	7,754,763	2,734,834	25,129,878		25,129,878
セグメント利益	1,097,876	117,405	196,413	1,411,695	568,723	842,971

(注) 1 セグメント利益の調整額 568,723千円は、すべて全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円22銭	10円90銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	601,494	380,917
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	601,494	380,917
普通株式の期中平均株式数(千株)	34,939	34,939

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月8日

東邦アセチレン株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柏 寄 周 弘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 杉 山 勝

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東邦アセチレン株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東邦アセチレン株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。